

仲間と声かけ合い励む

町内の高齢者宅で除雪作業

【美深】美深高等養護学校（大泉真哉校長）の2年生30人は、

21日から23日まで町内の高齢者宅で除雪作業を実施。

生徒たちは互いに協力しながら作業に励み、住民たちから喜ばれた。

集中作業の一環として、毎年この時期に実

施しているもの。社会的な自立に向けて必要な能力や態度の成長を確認し、卒業後の仕事や職場への適応能力を高める。また、地域の成果を還元し、地域住

民に貢献できる取り組みの場とするのを狙いとしている。

全学科（木工、工

業、農業、被服デザイン、食品デザイン）の生徒を対象に、4グループに分かれて除雪作業を実施。3日間で合

わせて14戸の高齢者宅を訪れた。

生徒たちは、玄関前の通路をはじめ、家屋や物置、車庫の周辺などを除雪した。

スコップを手に、うずたかく積もった雪をかき出し、雪押しダンプで運搬。この3日間

は天候が良く、気温も例年より高かつたため、ジャンパーを脱いで作業する生徒も。互に協力しながら除雪

に汗を流した。

生徒たちは、「やりがいがあります。仲間と声をかけ合うことを意識しないで頑張りました。大

変ですが、各家庭の方のために除雪をするので、感謝の気持ちを忘れずに作業しました。

鵜坂幸羽さん（農業科）は「やりがいがあることに喜んでいた。作業終了後には、すつきりとした空間が広がり、住民たちから大いに喜ばれていた。

鵜坂幸羽さんは「やりがいがあります。仲間と声をかけ合うことを意識しないで頑張りました。これからもいろいろな行事があるので、除雪を通じて得たことを生かしたいです」と語っていました。

なお、1年生も2月18日から20日まで町内の高齢者宅で除雪作業を行うことにしてい

る。

(中村)

